



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/14 (月)	+ 800	▲ 23,400	▲ 22,600	国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP等買入 補充供給 ▲ 600 + 400		
2/15 (火)	トン	+ 102,000	+ 102,000	源泉税揚げ 年金定時払い 国債発行償還 (個人)			日：GDP (4Q) 鉱工業生産 (12月) 米：PPI (1月)
2/16 (水)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (5年)	共通担保 ▲ 2,800		米：FOMC議事要旨 (1月25・26日開催分)
2/17 (木)	トン	+ 9,000	+ 9,000				1-0圖：ECB経済報告
2/18 (金)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000	国債発行 (20年)			日：全国CPI (1月) 米：景気先行指標総合指数 (1月) 1-0圖：消費者信頼感指数 (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初526兆6,700億円から始まった。財政等揚げ要因もあり、国庫短期証券買入オペ・社債等買入オペがスタートしたものの、ほぼ横ばいで推移した。週末となる10日には国債買入オペのスタートにより528兆6,200億円まで増加した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、△0.020%から始まった。その後地合いに大きな変化はなく、9日まで3営業日連続で△0.020%となった。10日は週末4日積みであったが、積み最終日を控えて資金調達に目途を付けたビッドサイドが調達量を抑制する動きがみられたことを受けて、一部オファーサイドに運用レートの切り下げがみられた。その結果、同金利は△0.022% (速報) に低下した。

ターム物は、週序盤は1月積み期内にエンドを迎える取引を中心に、主に△0.010%~△0.003%の水準で出合いが見られた。週の後半になると新積み期スタート物を中心に△0.040%~△0.010%での水準での出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内15日にGDP (4Q) や18日には全国CPI (1月) の公表などがあり、海外では16日にFOMC議事要旨 (1月25・26日開催分)、17日にはECB経済報告の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.090 ~ 0.000

<レボ>

今週の足許GC取引は、△0.09%~△0.08%の水準で推移。4日積みとなる10日受渡し取引においても水準に変化は見られなかった。短期3Mの発行日となる14日受渡し取引においては△0.08%~△0.07%の出合いとなった。SC取引では2年429~433回債、5年139~150回債、10年331~365回債、20年164~179回債、30年69~73回債、40年9~14回債

<CP>

今週の入札発行総額は約6,300億円で、週間償還額 (約6,100億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼業や電気機器業等で大型の発行が見られたものの、案件数は少なく、落ちついたマーケットであった。発行残高は先週末の26兆5,905億円から、9日時点で26兆6,036億円に増加した。発行レートは、希少銘柄や期越え銘柄を中心にディーラーの引き受けニーズが強く、該当する案件に対してはマイナスレートでの応札が見られ、△0.09%台~0.000%での出合いとなった。来週の週間償還額は、約8,700億円となっている。発行市場は、大型の期落ち案件のロール発行や5・10日スタート絡みの発行が見込まれることから、やや活況となることを予想する。発行レートは、コロナオペ向けの担保需要から、期越え物や希少銘柄については、引き続きマイナスレートでの決着となるであろう。一方で、残高が積み上がっている銘柄等に対しては0%近辺での出合いを予想する。

<TDB>

2月9日の6M1057回債の入札は、最高落札利回り△0.0866% (前回債△0.0866%)、平均落札利回り△0.0907% (前回債△0.0907%) となり、2月10日の3M1058回債の入札は、最高落札利回り△0.0819% (前回債△0.0930%)、平均落札利回り△0.0908% (前回債△0.0968%) となった。来週は2月17日に1Y、2月18日に3Mの入札がある。